

1 床面の清掃

チリやごみ・油汚れ等を除去します。

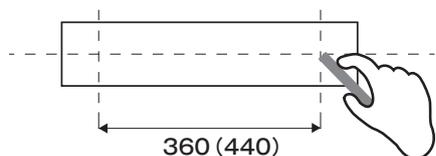
2 外形のケガキ

床面に本体を置き、置き外形をケガいて下さい。



3 穴位置決め

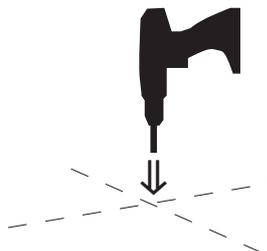
本体を取り除き、外形ケガキ線に対し 360(440)mm 間隔で穴開け用の印(2ヶ所)をつけます。※()内は 2・3 型の数値



4 穴あけ

印を付けた位置にドリル径φ12(φ15)にて深さ70~80(105)mmの穴をあけます。

※()内は 2・3 型の数値



5 穴掃除

吸埃機などで穴の中の切粉を除去します。

6 穴に接着剤を注入

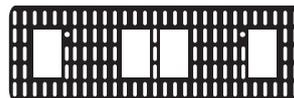
※接着剤は市販でお求めください。

7 本体裏面に接着剤塗布

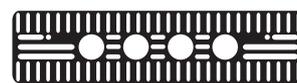
底部に接着剤を塗布して下さい。

※接着剤は市販でお求めください。

※穴はイメージです。



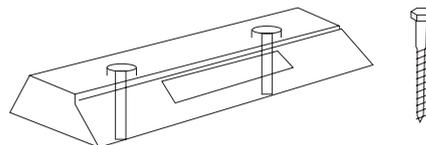
1 型



2・3 型

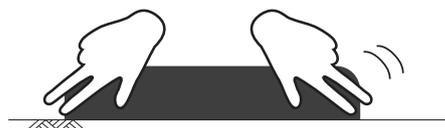
8-1 設置完了(1型)

本体の固定穴を樹脂アンカーに合わせナットを付けたボルトで締め穴の上部にふさぎ用ゴムを取りつけます。



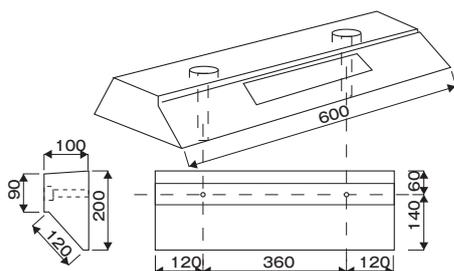
8-2 設置完了(2・3型)

本体のアンカー部分を穴に差し、押し付けて設置完了です。(アンカーは付属されておりません。※現地手配)

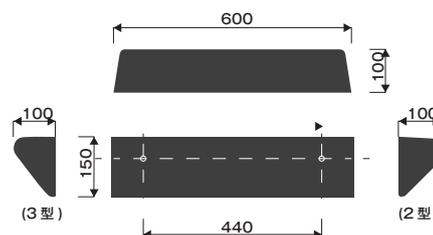


■ 本体寸法図

■ G・P・B1 型
(樹脂アンカー付き)

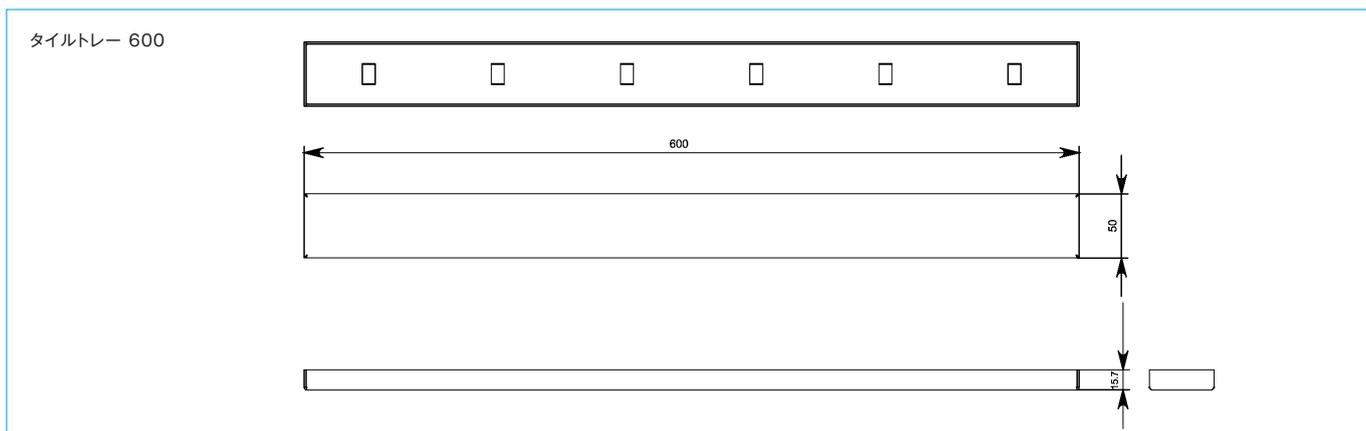
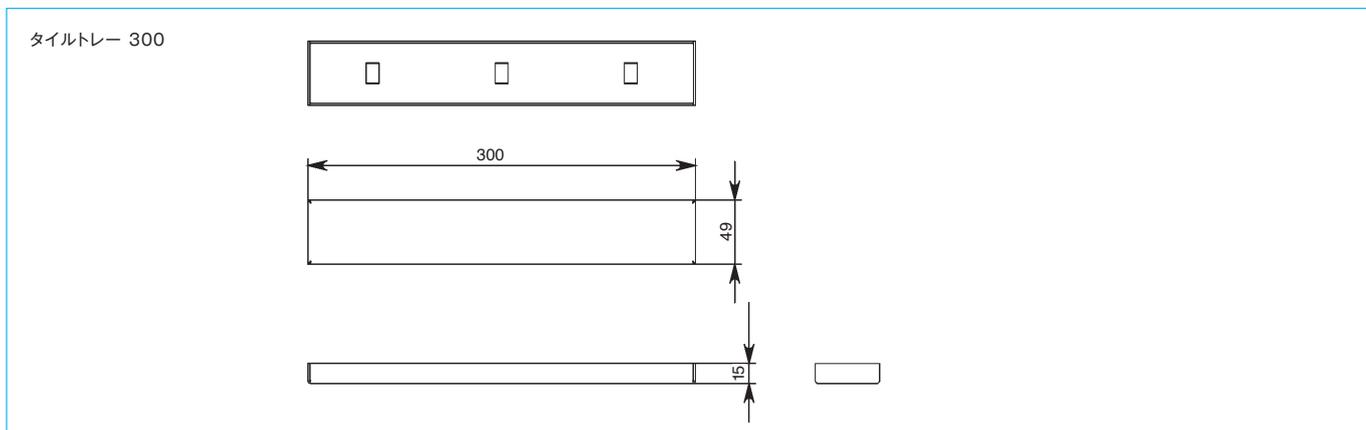
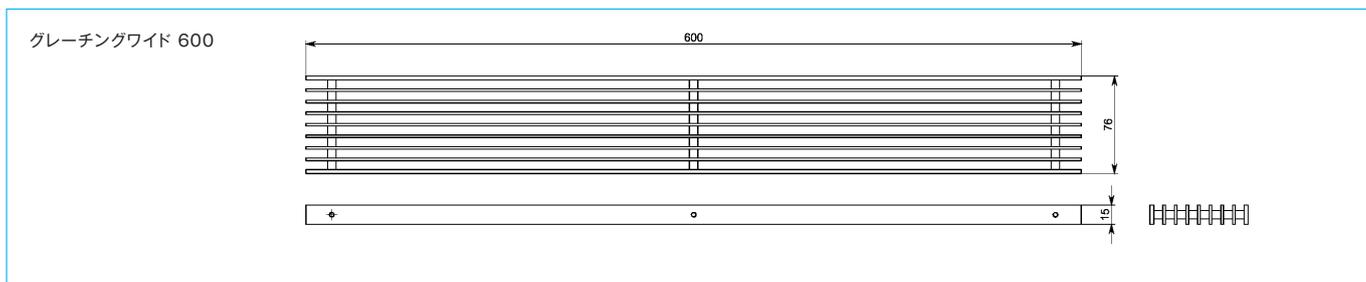
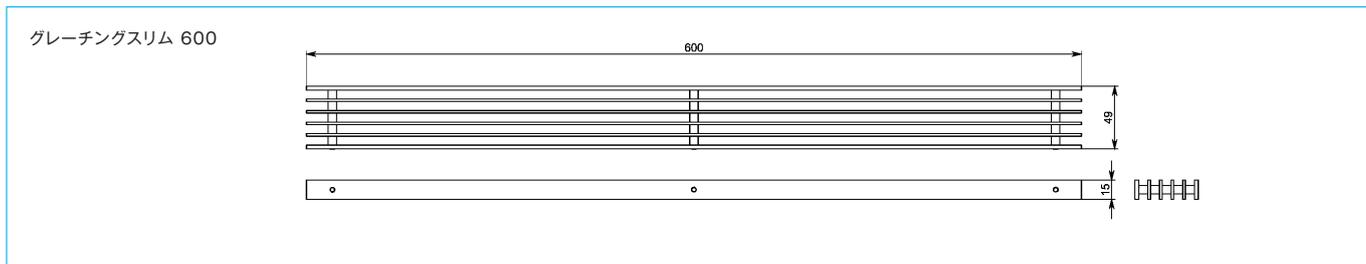
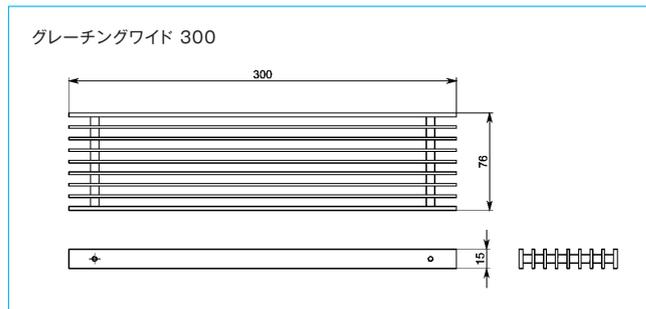
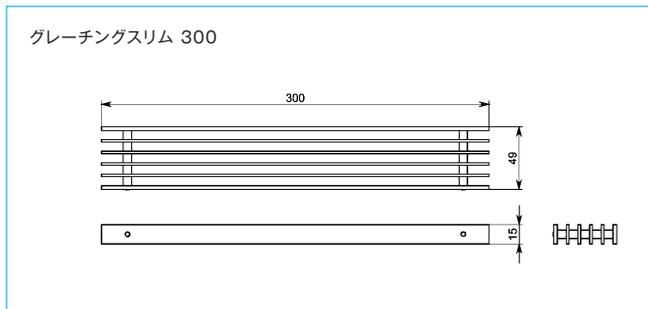


■ G・P・B2 型・3 型

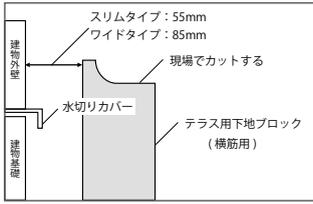


テラスエッジ

【テラスエッジの寸法図】

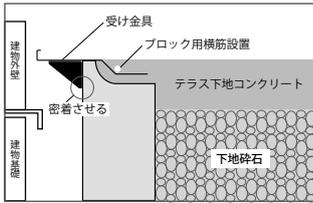


【テラスエッジの施工要領】



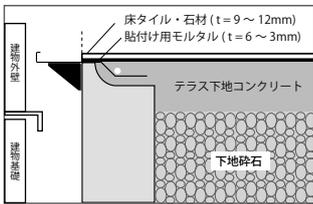
Step1: テラス下地ブロック作成

テラス下地ブロックを建物外壁からワイドタイプ 85mm(本体 79mm+クリアランス 6mm) スリムタイプ 55mm(本体 52mm+クリアランス 3mm) 離して積みます。外壁又はサッシ枠などの突出部とのクリアランス(間隔)は現場の状況に合わせて調整してください。受け金具の詳細は右図の寸法図(★)をご参照ください。



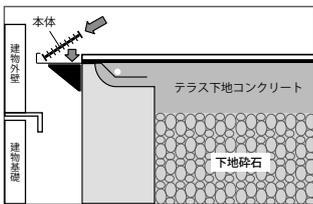
Step2: 下地土間打設 (受け金具の固定)

上部内側の立ち上がりを欠いて、受け金具をブロック立ち上がり面に密着させて設置します。団子状にしたモルタル等で仮固定します。テラスの下地土間コンクリートを打設し、受け金具を本固定します。
⚠️ 受け金具の三角形プレートが下地ブロックと離れるとたわみの原因となりますのでご注意ください。



Step3: 床の仕上げ、下地土間打設 (受け金具の固定)

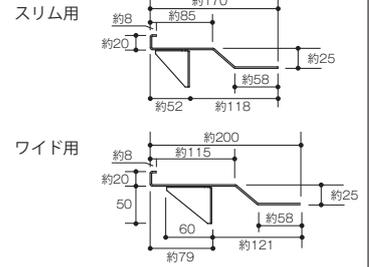
タイル天面とグレーチングの厚さ(15mm)が面一になるように下地モルタルの厚さを調節してください。
※タイルを貼る際、グレーチング本体を仮置きして、施工後グレーチングの脱着が可能であることをご確認ください。



Step4: 本体の設置

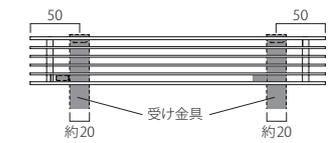
最後に受け金具に本体をセットしてください。受け金具の先端に折り返しが付いているので、先端を滑り込ませるようセットするとスムーズに取り付けられます。

受け金具 (側面図)



受け金具の設置位置

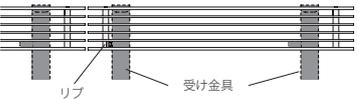
標準位置



ストッパー使用時

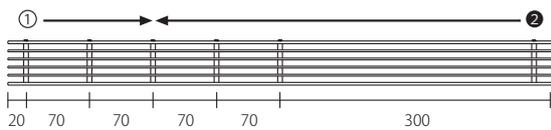


受け金具のサイドのパーツを折り曲げると、グレーチングの横すべりのストッパーになります。



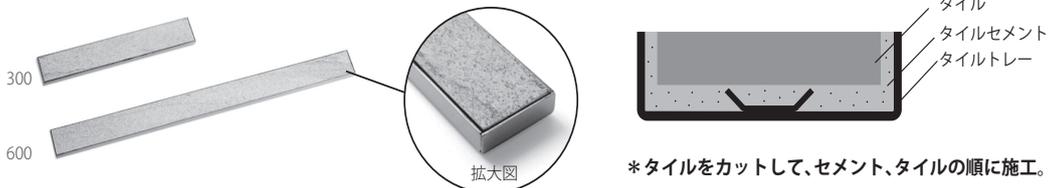
ストッパーを使用する場合は、リブに引っ掛かるか確認してから設置してください。

■グレーチングカットタイプ (現場加工) カット方法



- ① 使用寸法が 300mm未満の場合
リブが多い方 (図面左側) から計測し切断してください。
- ② 使用寸法が 300mm 以上の場合
リブが少ない方 (図面右側) から計測し切断してください。

■タイルトレイ 使用イメージ



■セット内容



■付属品について

サイドのパーツを折り曲げると、グレーチングの横すべりのストッパーになります。



クイックコート

施工要領

* クラック補修の場合。



1
下地処理
施工現場の清掃(ゴミ、油、塗料などをきれいに取り除く)



2
補修部分のV字カット
充填材をより密着させるためにサンダーでV字状にカットします。



3
充填材と水を混ぜる
硬化が早いため使用する面積に合せて必要な分だけを計量して混ぜて下さい。(1kgあたり水110cc)



4
攪拌
硬化時間が夏場は最短で約5分(冬場の低温時でも約45分)と短いので速やかに施工して下さい。



5
均し
金コテを使い充填材を埋め込むように均して下さい。

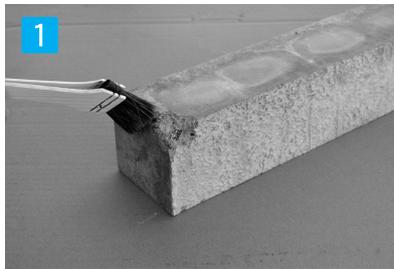


6
ふき取り
充填材が乾かないうちにウエス等で不要部分をふき取して下さい。



7
完成

* コンクリート縁石の場合。



1
下地処理
施工部分の清掃
(ゴミ・塗料などをきれいに取り除いておく)



2
充填材と水を混ぜる
硬化が早いため使用する大きさに合わせて必要な分だけを計量して混ぜ合わせて下さい。
(1kgあたり水110cc)



3
攪拌
硬化時間が夏場は最短で約5分(冬場の低温時でも約45分)と短いので速やかに施工して下さい。



4
均し
充填材の硬化の進み具合を見ながら金コテを使って形を作っていく。

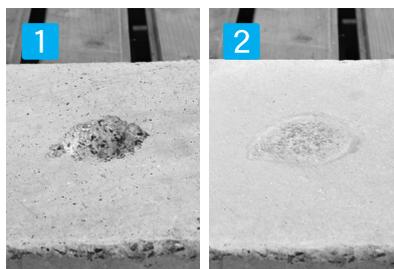


5
仕上げ
充填材の余分は引き取り仕上がり面を金コテを使って整える。

* 土間コンクリートの場合。



6
完成
硬化して完成(乾燥すると白っぽくなります)



1
下地コンクリートに
穴が空いた状態



2
補修完了

<注意事項>

- * 施工箇所が汚れた状態での施工は、はがれの原因になります。必ずゴミ、油、塗料などをきれいにふき取して下さい。
- * 硬化が早いので、一度に使用する量を調整して下さい。(夏場:約5分 冬場:約45分)
- * アスファルトに使用する場合は、アスファルトの伸縮により「ひび割れ」が起きる可能性があるため事前にテスト施工を必ず行って下さい。
- * 施工後すぐに使用した容器、ヘラ、コテ等は水で洗って下さい。

特徴

- 土間コンクリートや石貼り等をコーティングし、カビやコケの発生と生育を抑制させ防ぎます。
- 敷石、乱貼り等は、コーティング後は発色が鮮やかになります。
- 一般建築物に存在する約 60 種のカビ全てに有効。また抗菌、防臭、消臭効果もあります。

注意点

- ①カビ、汚れ等、必ず事前に洗浄し乾燥させてからご使用下さい。
- ②本製品は、カビ取り剤ではありません。
- ③本製品は、汚れ防止剤ではありません。
- ④汚れ、カビ等が残っていると、汚れ等を一緒にコーティングしとどまっています。

ご使用用途

日陰で、コケやカビが生えやすい場所

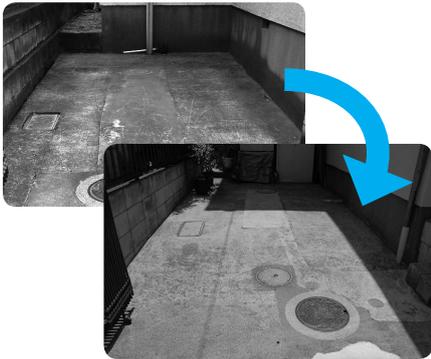
使用箇所

土間コンクリート
ステンシルコンクリート
敷石 乱貼り等

施工方法 2 回塗り

①洗浄	②乾燥	③ 1 回目塗布	④養生	⑤ 2 回目塗布	⑥養生
					
		1 回目は、しっかり乾燥させてから塗布して下さい		2 回目は、表面が乾いた後塗布して下さい	

※ 2 回塗りすることで、塗りムラを防ぎ、表面の保護力を上げます



製品情報		必要用具のご準備	
内容量	4kg	容器	
塗布面積	15㎡	刷毛又はローラー	
養生時間	夏 3 時間 冬 6 時間		
実働稼働日	5 日 (目安)		